

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390400145		
法人名	(有)プレム・ダン		
事業所名	グループホームおかげさん		
所在地	岡山県玉野市玉1丁目8番8号		
自己評価作成日	平成23年11月1日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3390400145&SCD=320&PCD=33
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート
所在地	岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO・会館
訪問調査日	平成23年11月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

常にやさしく笑顔で接することを心がけている。また、食事は入居者の方にとって大事な楽しみの一つであるため多彩な品数や食器に工夫をしたりしている。メインのおかずや何品かは外部に委託しているが、栄養バランスが考慮されており、ご飯を炊いたり、汁や簡単なおかずは入居者の方と一緒に作ったりすることができる。調理に職員が時間を取られず、少しでも入居者の方と過ごす時間を増やすことが出来ている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

社長の数多くの福祉介護に関する知識・経験を活かした事業も多くあるが、自分自身の経験で実践しているデイサービス事業に続いて、平成22年12月に玉野市で1ユニットのグループホームを開設して約1年経過した事業所を訪問した。1年しか経っていないのにホームで職員が明るく笑顔と笑い声一杯で利用者に接している事に利用者が安心して、余り心配事もなさそうに見えた事が一番の良かった事だった。利用者や家族が安心と満足度を持って生活出来るホームを作るために、先ず働きがいのある職場を作る事を第一の目標としている。そして何事にも目に見える事のみを注視するのではなく、その奥を探求する心掛けを持つ為、職員一人ひとりが良く考える事に注目していきたい。これからの進展を楽しみに見守り、期待していきたい。

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+-) + (Enter+-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を作り、共有を話し合いの中で再確認をして実践に繋げるように努力しているが、未達成と 思われる	「敬天愛人」を法人の理念として、みんなで話し合い、実践しようと努力しているが、理念がやや漠然としているので、今一つ盛り上がりには欠けているようだ。	理念を効果あるものにするために職員で分かりやすい具体的な目標を掲げ、それを実行することによって、理念に示した内容をケアやサービスの中に活かしていけば更に充実するだ
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の方と挨拶をしたり、花の種をもらったりと触れ合いはあるが、それ以上の付き合いは無く、 取り組みが出来ていない。	近所の方と挨拶したり、職員の知り合いが居て、祭りの時に立ちよってくれたことがある程度で、付き合いはあまりない。今後はボランティア等、近隣の資源を発掘していきたいと考えている。	この地域と馴染めるきっかけがつかめないようだが、近所の保育園児たちをクリスマス会に招いてみてはどうでしょう。入居者の方も子供達の訪問を喜んでくれると思います。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方に運営推進会議に参加していただき、ホームで認知症の方がどのように生活しているかを伝えている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議で出された要望や意見については、共有を行い、サービスの向上に繋げるように努力して いる。	2ヶ月に1回、運営推進会議を開催しているうちに施設への理解も徐々に深まってきている。会議で出された意見を積極的に取り入れてサービスの向上に努めている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の相談員が2ヶ月1回訪問され、入居者の ホームでの生活状況を伝えたり、相談させて頂いたり、それについての助言を頂いている。	市の相談員が2ヶ月に一度訪問し、入居者本人や職員から二時間くらいじっくり話を聞いてもらったり、助言を受けている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居者のリスク管理を行いながら、なるべく施錠しないように努力している。研修や話し合いを行いながら、身体拘束をしないケアを実践している。	入居者の安全を第一に考えつつできるだけ施錠しないケアを行っている。また、「入居者が不穏な行動になるのは職員の言葉掛けがきつくなっているのではないかな、等職員間で反省し改善している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修や話し合いを定期的に行い、声掛けなどで 不適切発言があった場合には、職員間で注意し合いながら、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所内で勉強会の機会を設けているが、制度的なことは出来ていない。研修の際に学んでいるが、すべての職員にそれらを、伝え切れておらず活用できるような環境が出来ていない。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、不安や疑問点を尋ね、それについて理解、納得をして頂けるように、説明を行っている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ケアプランの説明の際や、面会時などで入居者の方の状況説明を行い、意見や要望を聞いている。しかし、その意見等を迅速、正確に共有をし運営に反映することは、あまり出来ていない。	家族は自由に訪問でき、意見を述べる事ができている。家族から「新聞が読みづらいそうだ！」と意見が出されれば直ぐ老眼鏡を購入し、問題解決する等迅速に対応している。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に2回ミーティングを行っており、意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月2回のミーティングで入居者の思い、ケアの内容、「BPSD」等について活発に議論し、ケアのレベルアップに役立たせている。代表者も常に出席し、職員の気持を汲み取り、働き易いよう心配りしている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スキルアップによる手当てなど独自のシステムがあり、向上心がもてる様に整備されている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の職員に対して研修の機会を与えたり、事業所内での勉強会や、他の事業所の研修生を受け入れ、職員に対して刺激を与えている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	すべての職員には出来てはいないが、同業者同士の食事会などで意見交換をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入前や契約時で事前に状況の把握を行い、職員間で共有を行う。サービス導入開始時は、密にコミュニケーションを図り、信頼関係の構築に努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約前や契約時、その後の面会時などでコミュニケーションを図り、信頼関係の構築に努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様にサービス内容の説明を行いながら、支援内容の確認をして頂いている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	なるべく業務に集中しないように心がけ、一緒に活動をしたり、一緒にいる時間を増やせるように努めている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には一緒に過ごせる環境作りを行い、またご家族様に行事等の参加を促しながら、一緒に食事をしたり、談笑したりして過ごせる環境作りに努めている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様の確認のうえ、知人が来られた際には一緒に過ごせる環境を作ったり、ご家族様の協力の上会いに行かれたりしている。	家族や友人、知人がいつでも気軽に訪問できるようになっている。私たちの訪問中にも2組の家族、知人の訪問があり、入居者が嬉しそうに対応されていた。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	行事や日々の活動を一緒に出来る環境を提供したり、利用者間の相性を把握し、状況に応じて職員が介入しお互いに少しでもコミュニケーションが図れるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	当施設に事案が無く実践出来ていないが、今後あれば相談や支援に努めていきたい。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の会話の中で希望や意向が聞けるような声掛けを行っているが、なかなか聞き出せていない。なるべくご本人様が負担とにならないように生活支援をおこなうようにしている。	本人本位のケアを主体としており、時間をかけて一人ひとりの気持や意向を聞いて生活に活かしているが、難聴の方への対応でつい大きな声を出してしまう場面もあり、他の人にも影響している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様に今までの生活歴を聞いたり、以前入居されていた施設の職員に情報を得るように努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一緒に歩いたり、活動を行うことによって現状を把握し、また定期的にバイタルチェックを行っている。それらを記録し職員が把握できるようにしている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者に対して担当を作り、担当者を中心として定期的にモニタリングを行っている。	担当、副担当、管理者が中心となって、本人の思いや意向をしっかりと把握し、独自に立案した方式でプランを立て、ミーティング時にみんなで定期的にモニタリングを行っており、効果的なマネジメントをしている。今後期待しておきたい。	看護師が勤務されているので、プランに看護師からの視点も取り入れていくと、より具体的になるのではないかと思う。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の経過記録やスタッフ間が共有できる申し送り簿を作成し、出勤時には目を通すようにしている。また、変更があった際には、朝夕の申し送り時に連絡報告し全員が共有できるようにしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	新しい取り組みは出来ていないかもしれないが、なるべく個々のニーズに合わせた支援を行うように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の散歩や近隣への外出は行っているが多様な地域資源の把握は出来ていない。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時にかかりつけ医の確認を行い、定期的に往診を受けたり、状況に応じて受診をしている。	かかりつけ医、歯科医師が定期的に往診してくれる。専門医へは、症状に応じて受診している。かかりつけ薬局もあり、相談に乗ってくれるのも心強い。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に2回看護師が出勤しており、バイタルチェックや、医療的な助言、急変時の対応をしてもらっている。医療機関との連携も行っている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には看護師や医療ソーシャルワーカーと連携を図り、治療状況の把握や早期に退院できるように努めている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期においてホームで出来ることをご家族に説明を行っており、又ケアの方針も伝えられている。かかりつけ医、家族と相談しながら方針を検討している。	かかりつけ医が在宅医療に精通しているので、本人、家族の希望があれば、かかりつけ医、家族、代表者、管理者、看護師など話し合い、連携を取り合って看取りをしたいと考えている。他の職員も看取りについて勉強を重ねているところである。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	個々で勉強したり、急変時マニュアルに則して行動するようにしている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行うようにしているが、地域との協力体制は整っていないように思われる。	定期的に避難訓練をしている。地域柄から「津波」についても話し合い、対策を講じているが、近隣との協力体制はまだ整っていないようだ。	消防署にも協力して貰って運営推進会議の一環として避難訓練をしてみてもはどうでしょう。現状がよく分かり、消防署の助言、指導を受けながら皆で相談すれば協力体制も築けるのではないだろうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	なるべく尊重した声掛けを行うように努めているが排泄の際や難聴の方への対応で配慮に欠けた声掛けや大きな声を出してしまうことがある。	一人ひとりに合わせた声掛けが行われている。トイレに誘導する時もそっと声掛けして尊厳を守るよう心掛けている様子が伺えた。ただ難聴の方への対応にやや配慮に欠けた声掛けがみられた。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が出来るように、なるべく思いを聞いてから支援するように努めているが、なかなか聞きだせず、職員が決めてしまうことが多い。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	遅いペースであっても自分で出来ることはして頂いているが、ご本人様の余暇の時間の使い方についてはその日の状況により希望に添えないことが多い。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に美容室や散髪に行かれたり、困難な人については訪問散髪を依頼したりしている。着替えについては、職員が服を選ぶことが多い。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事メニューを掲示している。特定の入居者になってしまうが一緒に調理したり、片付けをしたりしている。時間に余裕がある時にしか出来ていないこともある。	職員ができるだけ介護に集中できるよう、メインのメニューは外部から取り寄せている。品数も多く、彩りもよく、美味しくみんな完食されていた。片付けも出来る人は積極的に手伝っていた。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量をチェック表に記入し、把握できるようにしている。状況に応じて水分補給や代替品が提供できるようにしている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けを行い、うがいやブラッシングをして頂いている。就寝前には入歯の管理をさせていただいている。口腔ケア困難な方には定期的に歯科往診をして頂き口腔ケアをしてもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表に記入しその人の排泄パターンを把握するように努めているが、失禁が多くみられることが多い。尿意の訴えがない方には定期的に声掛けにてトイレ誘導を行っている。	各自の排泄パターンを把握し、トイレ誘導している。トイレは2つ設置しており、自分の利用するトイレもよく分かっている人もいる。トイレでの声かけ時にはプライバシーに配慮するよう心掛けている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日ではないが、散歩や体操等行っている。センナ茶や腹圧、処方されている便秘薬の内服など行っているが、定期的な排便を促すことが出来ずその時の対処療法になっている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人様の体調や希望に沿うようにしているが時間帯については、職員の都合となってしまう事が殆どである。	週に2～3回入浴できるよう配慮している。入浴拒否する人には人を替え何度か声掛けして、体調を見ながら入浴を促している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中にご本人様の希望を聞き、1～2時間程度の静養を促すこともある。就寝時には、なかなか個々の入居者の方に合わせた支援が出来ていない。寝る前に居室でテレビを見て過ごす環境は作っている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬情報はファイリングしているが、副作用までは把握できていない。内服薬のチェックや服薬時の確認を行っている。かかりつけ医、看護師との協働を行っている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節の行事や将棋などの趣味やレクリエーションは行っているが、毎日とは出来ない。又特定の入居者だけになってしまうこともある。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	その日の状況に応じて、希望に沿うことが出来ないことがあるが、定期的に外出を行っている。地域資源の発見が出来ておらず、外出先が同じところになってしまう事が殆どである。	日頃は近所を散歩している。この散歩のお陰で歩行状態が改善した人もいる。また、車で近くのスーパーや深山公園にドライブに出掛けることもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出の際には、本人もちの財布を持って出掛け、その人の能力に応じて使ってもらっているが、職員が代わりに行うこと殆どである。また、特定の入居者との買い物が多く、一人一人の希望に応じていない。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	あまり電話や手紙のやりとりは出来ていない。ご本人様の希望があれば、対応に努めたい。事業所の通信は作成しており、定期的にご家族様に送付している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不必要な物は置かないように努め、廊下の距離感や天井の高さを配慮し圧迫感が無いようにしている。季節に応じた飾りつけもしている。花が少し	木の香りが漂う清潔なリビングルームには、午前中みんなで作った作品がツリーに飾られ、クリスマスを待つばかりとなった。廊下もゆったり広くベンチが置かれ、気の合う仲間とお喋りできる。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下に椅子や机を配置したり、畳みスペースやソファを置いている。しかし個々が積極的に使用できる工夫はされておらず、相性のあう入居者同士が座れるように誘導したりしている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様に使い慣れた物を持ってきていただいたりしているが、配置換えなどの工夫のみでそれ以外のことは出来ていない。状況に応じて必要な物があれば家族に依頼している。	木の香り漂う居室はベッドや馴染みの家具や小物を持ち込んで、それぞれの思いで部屋づくりをしているが、どの部屋も安全で清潔な居室づくりがされていた。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	分かりやすいカレンダーやアナログ時計は設置しているが、個々にあわせた物や自立に向けた工夫などは成されていない。		